

III ウォーキング

まず、^{みやくはく}脈拍を はかりましょう。

^{びょうかん}10秒間 はかって、^{ばい}6倍し、^{ぶんかん}1分間の

^{みやくはく}脈拍を ^だ出します。

^{おとな}大人の^{ひと}人の ^{しずか}しずかにしているときの

^{みやくはく}脈拍は、^{かい}65～80回のあいだです。

^{した}下の表は、^{ひょう}ふつうの ^{たいりよく}体力の ^{ひと}人が

^{つよ}50%の強さで ^{うんどう}運動した ^{とき}の

^{みやくはく}脈拍 です。



^{ぶんかん}1分間の ^{みやくはく}脈拍

^{さい}50歳の^{ひと}人 ^{かい}115～125回

^{さい}40歳の^{ひと}人 ^{かい}125～135回

^{さい}30歳の^{ひと}人 ^{かい}130～140回

この ^{みやくはく}脈拍すうで ^うウォーキングすると ^{たいりよく}体力がつきます。

ストレッチングとウォーキングを するときの

にほんご おぼ
日本語を 覚えましょう！

SUTORECCHINGU TO UOKINGU O SURU TOKI NO

NIHONGO O OBOEMASHOU!

<ストレッチング> SUTORECCHINGU

- いき と
・ 息を 止めません

IKI O TOMEMASEN

- びょう
・ 10～20 秒 ゆっくり のばします
10～20 BYOU YUKKURI NOBASHIMASU

- きもち かん
・ 気持ちよい いたさを 感じます

KIMOCHI YOI ITASA O KANJIMASU

<ウォーキング> UOKINGU

- ある
・ ストレッチングをしてから 歩きます
SUTORECCHINGU O SHITE KARA ARUKIMASU

- ・ せすじを のばします

SESUJI O NOBASHIMASU

- ・ うでを しっかり ふります

UDE O SHIKKARI FURIMASU

- あし
・ かかとから 足をつきます

KAKATO KARA ASHI O TSUKIMASU

- ひと おお すこ はや ある
・ できる人は いつもより 大きい ステップで 少し速く 歩きます

DEKIRU HITO WA ITSUMO YORI OOKII SUTEPPU DE SUKOSHI HAYAKU
ARUKIMASU

- ・ とちゅうで ^{みゃくはく} 脈 拍 をはかります

TOCHUU DE MYAKUHAKU O HAKARIMASU

- ・ ^{ある} 歩く ^{まえ} 前、^{ある} 歩きながら、^{ある} 歩いたあと ^{すいぶん} 水分 を とりましょう

ARUKU MAE, ARUKINAGARA, ARUITA ATO, SUIBUN O TORIMASHOU

- ・ おわったら ストレッチングをして つかれを とります

OWATTARA SUTORECCHINGU O SHITE TSUKARE O TORIMASU

- ・ ^{けんこう} 健康カードに かきます

KENKOU KADO NI KAKIMASU

- ・ ^{まいにち} 毎日の ^{うんどう} 運動を ^{しゅうかん} 習慣にしましょう

MAINICHI NO UNDOU O SHUUKAN NI SHIMASHOU

ウォーキング班 11月12日

NIHONGO DE ITTEMIYOU!

日本語で言ってみよう

① ITSU UOKINGU O SHIMASHITAKA?

いつ ウォーキングを しましたか?

MAINICHI・TOKIDOKI・AMARI DEKIMASENDESHITA

まいにち・ときどき・あまりできませんでした

ASA・HIRU・YORU

あさ・ひる・よる

② DOKO DE UOKINGU SHIMASHITAKA?

どこで ウォーキングしましたか?

IENOMAWARI・KOUEN・KAISHANOCHIKAKU

いえのまわり・こうえん・かいしゃのちかく

③ DARETO UOKINGU SHIMASHITAKA?

だれと ウォーキングしましたか?

HITORI・TOMODACHI・KAZOKU

ひとり・ともだち・かぞく

④ DONOKURAINOJIKAN UOKINGU O SHIMASHITAKA?

どのくらいのじかん ウォーキングをしましたか?

10 PUN・20 PUN・30 PUN・40 PUN・50 PUN・1 JIKAN・TAKUSAN

10 ぶん・20 ぶん・30 ぶん・40 ぶん・50 ぶん・1 じかん

・たくさん

⑤ KANSOU

かんそう

【料理班】 レシピを考える

テーマ TEEMA	かぼちゃ ・ りんご KABOCHA ・ RINGO	
りょうりの しかた RYOURI NO SHIKATA	あげる むす じる やく いためる AGERU MUSU NIRU YAKU ITAMERU	
ざいりょう ZAIRYOU		
つくりかた TSUKURI-KATA		

きをつけること
KI O TSUKERU KOTO

どんなとき たべますか
DONNATOKI TABEMASUKA

LEZIKI IET-KVALV
レズィキ イェー・クァルヴ

レシピの え
RESIPI NO E

SVIRZON
スィヴゾン

BYOTBI NO SHIKZLV
ブヨツビ ノ シキヅルヴ

LEEVIV
レェーヴ

LEZIKI IET-KVALV
レズィキ イェー・クァルヴ

TCERB: MZSD ZIBI ZVKI REZHEBI
ツェーブル エム・ゼー・ジビ・ゼヴキ レー・ゼー・ヘー・ビ

KYBOSIV . ITZGO
クィ・ボスィヴ イェー・ツェー・ゴ

はっぴよう

発表 テーマ

HAPPY YOU TEEMA

なまえ

名前

NAME

今回 私たちのチームは ノルディックウォークでした。このじゅ業の前 その名前とやり方は 全く知りませんでした。川場村の経験 は とても 面白かったです。

本当は 川場村へ行く前に頭が痛いし、ひざもい配でした。だけど どう着してから元気で気分がよくなりました。

川場村はきれいな村です。村にはたくさんの畑と山がありました。ウォーキングの時に先生が 私たちに 詳しく説明をしてくれました。それから生まれて初めて二時間 六キロメートルを歩きました。ノルディックウォーキングしながら いろいろな物を見つけました。まぜつの花を見たり、酒の店へ行ったり、やさしいおじいさんに大きなりんごをもらったりしました。

ノルディックウォーキングでは スティックで歩くのがとても良かったです。自分のひざを助けられたし、それで長い時間痛みなしで楽しく過ごしました。

私にとって、ノルディックウォーキングは けんこうのためによいです。体が動く、そしてストレスのたまらないようになる 便利な方法だと思えます。

はん
班

はっぴよう
発表 テーマ
HAPPY YOU TEEMA

なまえ
名前
NAMAE

外国人は 天気 したい ですから、たぶん あき とはる に
しょうかい すれば たくさん 来る と思います。

この クラス の おかげ で 私 と 子供 と 一緒 に 日本 の 文化 を
たくさん 学ぶ ことが できました。今まで 二回 参加 している
けど、毎年 参加 したい です。

なぜ なら、この 教室 では 先生 と か つうやく と か 留学生 と か
仲間 と か みんな が やさしい から です。その 結果、自由 に 意見を
言う ことが できます。

川場村 に行った 後は 会社 で 仲間 と 日本語 で おしゃべり
できるよう になりました。

みなさん と 一緒 に 過ご せて 面白 くて 楽しい 週末 になりました。

みなさん ありがとう ございました。

班

はっぴよう

発表 テーマ

HAPPY YOU TEEMA

川場村への
感謝の言葉

なまえ

名前

NAMAE

川場村に行きました、言葉がでないくらい

この研修旅行はとっても楽しかったです。

たくさん食べて飲んで勉強にそれだけではなく

毎日新聞にのせてくれました。すばらしいと思いました。

群馬大学の先生をはじめ、すべての先生がた
に感謝の言葉をいかにもらしあげたいと思います。

川場村は太田からバスで2時間ぐらいで
行くことができます。静かで小さな村です。この村は
時間がとまっているような感じがします。

私は何よりも、人の優しさやおもてなしの
よさを感じました。

私たちの目的はお酒をとおして川場村を
知ることです。お酒はたいへんおいしかったです。

今回2つの酒蔵^{さかぐら}に行きましたが、1日目に
^{さかぐら}

2つの会社に行ければ、もっとよかったと思いました。
なぜなら、^{くら}比べることが出来るから。^{えら}選ぶ^{たの}楽しみ
が増えるからです。

友だちに、日本酒を ^{みやげ}お土産に、たくさん買いました。
お酒はたくさん飲みますが、日本酒は、はじめての
人がたくさんいました。みんな「とてもおいしい」
「どの場所?」「どこで買えますか?」「どうすれば
川場村に行けますか?」と、さかれました。
私の思い出は、みんなに ^{ひろ}広がりました。

私は日本語の勉強は、おもしろいと思います。
でも、やる気がないとつづかないです。私達は、
日本に住んで一番 ^{こま}困っているのは言葉ですが、
大人には言葉より ^{ゆうせん}優先する ^{せきにん}責任がある、それぞれの
仕事があります。でも、私のように勉強をあきらめ
ないで、^{しゅみ}趣味と思って勉強をつづけていきたいと思います。

りょうり

はん
班はっぴよう
発表 テーマ
HAPPY YOU TEEMAなまえ
名前
NAME

せんせいから、いろいろなかほ"ちゃ"をもら
せてくれました。わたしたちは、リッポ"んのかほ"ちゃ
には、いろ、さいす、あじなどか"たくさんあるという
ことがわかりました。かほ"ちゃ"をみたら、わたしたち
くにのピカロニというりょうりをあそびました。
ピカロニは、とってもおいしいデザートです。いま
までは、りょうりにつかうさいりょうか"どのくらいの
えいようがあるか"わかりませんでした。でもえいようし
きんにあしえてもらってよくわかりました。

わたしは、かほ"ちゃ"のレシピは、かわは"のひと
たちとこうりゅうをするのに、とってもむいていて
あそびました。かわは"でも、リッポ"なかほ"ちゃ"を
つくっているからです。

わたしは、りょうりはんで、しよくさいのなまえを
にほんごで あしえてもらいました。そのあかげで、
いまは、かいものをあそぶときに、こまらなくなり、
もんだい"がなくなり、とってもうれしいです。

ぐんまで迎える「高齢期」に備える

群馬大学「ハタラクラスぐんま地域日本語教室」へのお誘い

仲間と一緒に暮らしの知恵を学び合いませんか？

企画・運営責任者 結城恵(群馬大学 教授)

この日本語教室は、「高齢期」をぐんまで迎えることを考えている

外国につながる住民のみなさんを対象に開かれるものです。

もしも、みなさんが高齢期をぐんまで迎えることになるのなら
ぐんまの豊かな自然と食とあたたかな人と触れ合っていたきたい。

もしも、みなさんが高齢期をぐんまで迎えることになるのなら
みなさんの知恵を教わり、ともに仲間として地域で暮らしていきたい。

私たちはそんな思いをもって

「ハタラクラスぐんま地域日本語教室」を開いています。

※

私たちの教室では、授業という雰囲気ありませんし、

「あいうえお」や「文法」の勉強からはじめることもありません。

自分の国のことばでたくさん考えていることを表現し、

ある時は一緒に旅をし、ある時は一緒に料理を作ったりしながら、

教室の仲間と一緒に考えて行動します。

※

そうしたら、いつのまにか日本語が話せるようになっていて、

日本人の友だちもできていて、

ぐんまの素敵な場所への小旅行のしかたや、

ぐんまの野菜を使った料理のしかたや、

ぐんまの水やお酒の味わい方にも詳しくなっている・・・。

そんな日本語教室を私たちはめざしています。

あなたも、この教室に参加してみませんか？



■教室のスタッフ

教室でみなさんを応援するスタッフは、群馬大学の教職員のほかに、子どもたちを教える仕事や、まちづくりの仕事、高齢者のサポートをする仕事など、多様な職業をもつ、いろいろな年齢層の人たちです。

■日時

第1回 2017年8月20日(日) 13時～16時 開催。

第2回以降の予定は、 9月17日(日)、11月12日(日)・26日(日)、

12月3日(日)、1月14日(日)・28日(日)、2月18日(日)

※川場村訪問 10月15日(日) 日帰り 12月16日(土)・17日(日) 1泊2日

※報告会 2月25日(日)

これらの時間帯は別にご連絡します。

■場所

群馬大学太田キャンパス 4階

(太田市本町2-9-1) ※無料駐車場があります。

NAVI 検索用電話番号 [0276-50-2231](tel:0276-50-2231)

太田キャンパスアクセス <http://www.gunma-u.ac.jp/access#oota>

■内容

小旅行で行く予定の

川場村産野菜の料理の仕方を一緒に考えましょう。

川場村のお散歩ルートと一緒に考えましょう 等

内容は成人向けですが、お子さん(小学生以上)も一緒に参加できます。

■費用

無料。ただし、特別活動(小旅行等)は別途お知らせします。

■通訳

ポルトガル語やスペイン語、英語、中国語、やさしい日本語を話すスタッフがいます。日本語に自信がなくても大丈夫です。

■証書

参加した時間数に応じて、群馬大学結城研究室から**修了証書**を発行します。

■定員

50名(先着順) 定員に達し次第、締め切らせていただきます。

■申込み方法

①名前、②母語、③住所、④電話番号、⑤メールアドレスを
次のメールまたはFAXでおくってください。

ご家族で参加する場合は、参加する方全員のお名前と、お子様の年齢をお知らせ下さい。

■申込み先

メール：pcdc@ml.gunma-u.ac.jp FAX：027-220-7382

(群馬大学結城恵研究室)

■＜申し込み期限＞

2017年7月14日(金) 正午まで

■主催 群馬大学

平成29年度文化庁委託事業「生活者としての外国人」のための日本語教育事業選定事業

Convite para participar do curso da Universidade de Gunma
Aula de Língua Japonesa Hatarakurasu (trabalhar e viver) Gunma

Preparar-se para passar a "terceira idade" em Gunma

Vamos compartilhar e aprender junto com a turma sobre a sabedoria cotidiana

Responsável pelo projeto - Megumi Yuki (Professora da Universidade de Gunma)

Este curso de Língua Japonesa é **voltado para todos os moradores estrangeiros que estão pensando em passar a terceira idade em Gunma.**

Caso estejam pensando em passar a terceira idade em Gunma, desejamos que possam desfrutar da natureza e comida abundante de Gunma e que possam conviver com pessoas amáveis.

Caso estejam pensando em passar a terceira idade em Gunma,
gostaríamos de estar compartilhando os seus conhecimentos e estar vivendo juntos nesta região.

É com estes pensamentos é que estaremos oferecendo este curso de
"Língua Japonesa Hatarakurasu (trabalhar e viver) Gunma".



No curso, as aulas não são convencionais,
começando com o *hiragana* "a,i,u,e,o" e nem estudando a gramática.
Vocês **irão falar muito na sua própria língua dando suas opiniões,**
irão viajar conosco, irão fazer comidas,
estarão refletindo e em ação junto com os companheiros do curso.



Assim, quando perceberem estarão falando o japonês,
terão feito amizades com os japoneses,
estarão mais familiarizados
em como planejar pequenas viagens para locais maravilhosos de Gunma,
em fazer comidas com as verduras e legumes de Gunma,
em saborear a água e o *sakê* de Gunma...
Pensamos em oferecer um curso de Língua Japonesa um pouco diferente.
Vocês não gostariam de participar ?



■ A equipe do curso

Os integrantes da equipe que irão dar apoio no curso, são professores e funcionários da Universidade de Gunma e várias pessoas com idades e profissões diferenciadas tais como profissionais da área de educação das crianças, profissionais que trabalham com o desenvolvimento da cidade, profissionais que dão assistência aos idosos etc.

■ **Data e horário** 1ª aula 20 de agosto(dom) de 2017 12h45 às 16h

Datas das aulas posteriores 17 de setembro(dom), 12(dom) e 26(dom) de novembro, 03 de dezembro(dom), 14(dom) e 28(dom) de janeiro e 18 de fevereiro(dom)

- Viagem para a cidade de Kawaba 15 de outubro(dom), 16(sáb) e 17(dom) de dezembro

- Apresentação de conclusão do curso 25 de fevereiro(dom)

■ **Local** Universidade de Gunma – Campus de Ota 4º Piso

(Ota-shi Honcho 29-1) Estacionamento gratuito.

Número de telefone exclusivo para procurar endereço na NAVI 0276-50-2231

Acesso à Universidade de Gunma – Campus de Ota <http://www.gunma-u.ac.jp/access#oota>

■ Conteúdo das aulas

Vamos pensar juntos numa maneira de preparar pratos com verduras produzida na cidade de Kawaba.

Vamos procurar juntos um percurso para fazer caminhada na cidade de Kawaba etc.

As aulas são voltadas para adultos, mas é possível crianças a partir da idade escolar primária participar.

■ **Despesa** O curso é gratuito. Porém há despesas de viagens. Comunicaremos posteriormente.

■ **Tradução** Há assistência de intérpretes que falam português, espanhol, inglês, chinês e Língua Japonesa de fácil compreensão. Não é necessário dominar a língua japonesa.

■ **Certificado** A Universidade de Gunma – Projeto de Pesquisa Yuki emitirá um **certificado de conclusão** de acordo com o número de frequência.

■ **Vagas** 50 participantes (por ordem de inscrição) A inscrição será fechada tão logo as vagas sejam preenchidas.

■ **Como se inscrever** Enviem ① Nome ② Língua materna ③ Endereço ④ Telefone

⑤ Endereço eletrônico(e-mail) para o e-mail abaixo ou por FAX.

Caso vá participar em família, escreva o nome de todos os participantes e a idade da criança.

■ **Inscrição** Via e-mail: pcdc@ml.gunma-u.ac.jp FAX : 0 2 7 – 2 2 0 – 7 3 8 2

Universidade de Gunma – Sala de Pesquisa Yuki Megumi)

■ **<Prazo de inscrição> 14 de julho de 2017(sex) até 12h**

■ **Realização Universidade de Gunma**

Projeto da Agência de Assuntos Culturais 2017 de Ensino da Língua Japonesa para "Estrangeiros residentes"

文化庁「生活者としての外国人」のための日本語教育事業
地域日本語教育実践プログラム(B)採択事業
群馬大学「日本で高齢期を主体的に生きるための地域日本語教室」
関連報道記録
2018年3月16日現在

平成29年度

	日 付	掲載紙(誌)	項目
1	2017/8/21	上毛新聞	外国人の暮らし支援 定住者向けに日本語教室
2	2017/11/27	上毛新聞	川場の魅力 外国人に ミス日本酒が地酒解説
3	2017/12/20	毎日新聞	東毛地域の定住外国人 川場の酒蔵で魅力学ぶ
4	2018/2/26	上毛新聞	川場盛り上げ外国人が一役 ペルー人ら提言
5	2018/3/16	毎日新聞	日本語学び 川場のまちづくり

群大

外国人の暮らし支援

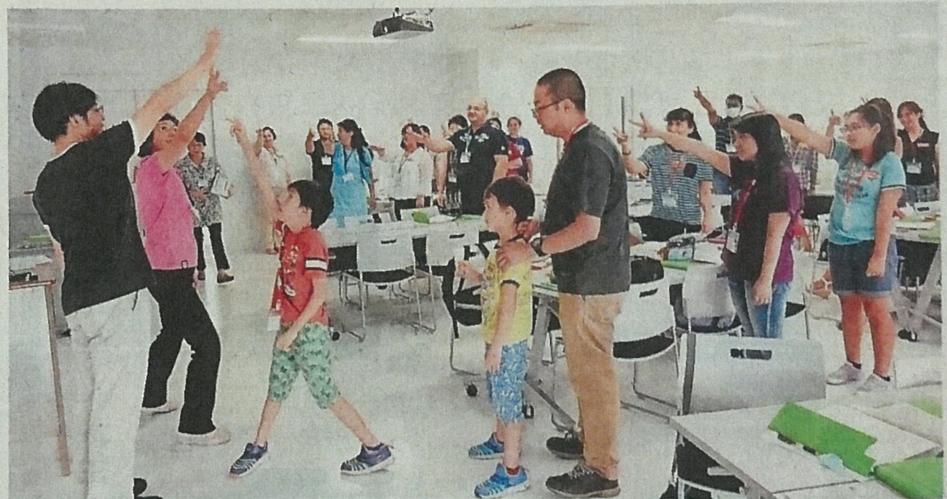
定住者向けに日本語教室

太田

域日本語教室「ハタラクラ
スぐんま」(群馬大主催)

が20日、太田市本町の同大太田キ
ャンパスで開かれた。1回目とな
る今回はペルーやブラジル国籍の
約40人が、高齢期に備えた健康づ

話した。



くりを学ん
だ。

受講者は自
己紹介をした
後、「グーパ
ー体操」に取
り組み、頭を
使ったトレー
ニングの一例
を実践した。Ⅱ
写真。体調管
理に役に立つ
血圧測定に関
する日本語や
注意点も学ん
だ。

外国人学習
者の主体性
を育み、地域
に根ざした

外国人定住者のための地
域日本語教室「ハタラクラ
スぐんま」(群馬大主催)
の国籍を持つ渡辺マルティナさ
ん(48)は「文化や行事に出てくる
日本語のフレーズや、生活に役に
立つ情報を学びたい」と意欲的に



川場の魅力 外国人に

ミス日本酒が地酒解説

太田 川場村の魅力を
考えながら日本語
の能力を磨く企画
「地域日本語教室」が26
日、太田市の群馬大太田
キャンパスで開かれ、2
017ミス日本酒群馬代
表の結城瞳シーナさん
(23)が川場村の地酒の魅
力と特徴について語った
写真。
結城さんは感元でのイ
ンターシップを経験。
講演では「それぞれの酒

蔵には物語がある。日本
酒には水、歴史、伝統な
ど蔵人のこだわりが結晶
している」と強調した。

講座はペルー、ブラジ
ルなど4カ国26人が受
講。12月中旬には日本酒、
料理、トレッキングの3
班に分かれて、川場村で
合宿を予定している。

文化庁の事業で、結城
恵群馬大教授が企画・運
営責任者を務める。

日本酒を試飲して「おいしい!」と笑顔を浮かべる
定住外国人ら＝川場村川場湯原で



「日本酒のおいしさ知らなかった」

東毛地域の定住外国人 川場の酒蔵で魅力学ぶ

東毛地域に住む外国人らが16日、川場村の老舗酒蔵で、日本酒の味わいや作り方について学んだ。

定住外国人が「生きがい」を感じられる社会作りを目指し、群馬大、自治体、企業などが連携して取り組む「ハタラクラスぐんま事業の一環。2020年東京五輪・パラリンピックに伴いインバウンド（訪日客）消費の増加が見込まれる中、外国人の視点から感じた魅力を発信

してもらい、商品のPRや受け入れ環境整備につなげる狙いがある。

この日は、県内のブラジル、ペルー、中国人と企画責任者の結城恵・群馬大教授ら計9人が、日本酒「誉国光」の製造元「土田酒造」（川場村、創業1907年）を訪れた。

担当者から、酒の仕込み水として関東名水百選の武尊山系の伏流水を使っていることや、米と酵母が自然に反応するのを待つ「量より質の製法」などについて説明を受けた。

母国ブラジルで酒造を学んだことがあるという横田シルビアさん（42）＝太田市＝は「母国で一般的なアルコール度数38度以上の蒸留酒とは異なり、まろやかでのごしが良く、女性に人気が出ると思う」と好印象の様子。

ペルー出身の森下ビルジニアさん（49）＝太田市＝も「原料の水と米をとても大切にし、作り方も全てが丁寧で感動した。でも、日本酒のことをこれまで全く知らなかった。もっと魅力を知る外国人が増えればいい」と太鼓判を押しした。

土田酒造の笹崎弘光さん36は「日本酒の説明で、参加者からあんなに多く質問されたのは初めて。外国人にも日本酒のおいしさを知ってもらうきっかけを作りたい」と話した。

これとは別に、外国人ら22人が川場村で、地元食材を使った料理レシビについて考えたり、観光ルートの開発を目指しウォーキングをしたりした。

川場村は16年に東京五輪・パラリンピックの米国選手団のホストタウンに登録されている。

【杉直樹】

川場盛り上げ 外国人が一役

ペルー人ら提言

太田

定住外国人の目線で川場村を盛り上げる報告発表会が25日、太田市の群馬大太田キャンパスで開かれ、ペルーやブラジル人ら19人が日本語で提言や感想を述べた。写真。

発表会では「もっと自分の村を自慢したほうがよい」「ローマ字の地図を作してほしい」「カボチヤを使った料理を考えたので活用してほしい」といった提言などがあった。講座参加者には受講証明書が渡された。

発表会は文化庁「生活者としての外国人」のための日本語教育事業の一環。同大の結城恵教授が担

当し、参加者は昨年12月に川場村を訪れ、ウォーキング、料理、日本酒の3班に分かれて観光コースや新名物料理などを考えた。





川場村でのフィールドワークの感想を日本語で発表する受講者(中央) 11月、川場村の群馬大太田キャンパスで

日本語学び 川場のまちづくり



「皆さんの知識と文化と誇りを持って、いろんな国々の人が群馬に来て困らないように、楽しんでもらえるように、一緒に何かを作り上げていきたいと思います」と受講生に語りかける群馬大の結城教授

定住外国人に、日本語を学びながらまちづくりにも参加してもらおうという異色の「日本語教室」の事業報告会が2月に、群馬大太田キャンパス(太田市本町)であった。まちづくりの「フィールドワーク」の舞台に選ばれたのは2020年東京五輪のホストタウンになった川場村。村の魅力や課題を探った外国人からの指摘に、村担当者らは観光戦略を考えるヒントが得られたと受け止めた。事業は、今年度、群馬大が文化庁の委託を受け、県内外の外国人約20人を対象に実施した。受講者は群馬大で月1、2回程度、日本語を勉強し、昨年12月には「フィールドワーク」として川場村で、料理▽ウオーキング▽お酒の各班に分かれ、日本酒の酒蔵見学や地場野菜を使ったレシピ開発などに関わった。2月25日に開かれた事

群大 定住外国人から知恵 事業報告会

業報告会では、この時の活動の様子を写真を見せながら日本語で発表した。外国人からみた川場村の魅力とは、「自然の景色が素晴らしくリラックスできた」「おみやげにお酒を持ち帰ると、友達に喜ばれ、『ここで買えるか』と聞かれた」。一方、課題もスバリと指摘された。「案内の図画が分かりにくい」「料理に使う調味料の違いを克服する工夫が必要」。発表を聞いた川場村むらづくり振興課の戸部正紀課長は「観光地の感想や課題について生の声が聞けた。観光資源を見直し、村全体を巡ってもらう方法を考える上でさまざまな手がかりがあった」と評価した。

事業責任者の結城恵・群馬大教授は「定住外国人も地域で役立ちたいと思っている。コミュニケーションツールとして日本語を学びながら、地域貢献の活動に主体的に参加してもらおう狙いがある」と事業の意義を強調。「新たな観光インバウンド(訪日客)ルートを川場村とともに開発したい」と外国人との「協働」に期待を込めた。

受講生の一人、埼玉県本庄市、会社員、平良ベギさん(38)は「川場村は初めて訪れた川場村について『村はとてもしれい』『リンゴがおいしく、みんな優しい』と、日本語をもっと勉強して、もう一度行きたいと思った」と笑みを浮かべた。

【杉直樹】